

出生体重児の入院費の検討

(分担研究：新生児救急医療システムに関する研究)

後 藤 彰 子

目的：極小未熟児の出生率がまし、死亡率が減少すると、それに伴って入院が長期化し、多額の費用を要する。そこで早産未熟児の入院費用の実態と早産防止のための母体管理費とを対比して検討した。

対象・方法：昭和62年1月より12月までに神奈川県立こども医療センター新生児室に入院した早産未熟児75名を対象とした。対象例からは死亡例・sfd児・奇形合併例を除外した。75名の全入院費用を算定した。母親の1日入院費の算定方法は表1にあげた。抗生剤は早期破水

例に使用し、NSTは保険適用外で1日2回とした。この他超音波週1回550点(同一月内2回日以降495点)加算した。母親の入院期間は36週6日相当までとして計算した。

結果：表1に対象となった75名の在胎別症例数と入院期間を示した。表3は入院費の実数である。入院費は24週から27週まで500万、400万、300万、200万と100万ずつ減少している。

考察：24週から28週までそれぞれ3名ずつで対象人数が少ないが、28週(およそ1,000g前後以下)までは1週毎に差が開いた。出生体重が低くなるほど費用が高くなるがその理由は入

表1 切迫早産入院治療費算定方法

治療内容：5%グルコース	500ml
ウテメリン	1V
NST	2回
超音波	1回/週
AB-PC	2g
セフェム系	2g
治療費(1日)	
入院費	1179点
点滴手技	75
回路	14
薬剤	230
	(+抗生剤415)
NST	300×2
計	2098
	(2513)

(他に超音波 550/週を含む)

表2 昭和62年1月から12月にKCMCに入院し生存退院した低出生体重児(afd)75例

在胎週数	平均体重	症例数	入院期間平均(日)
24	750g	3	158(141~182)
25	993	3	116(80~142)
26	938	3	112(93~133)
27	1077	3	91(85~98)
28	1096	3	99(82~131)
29	1349	7	79(49~116)
30	1496	11	58(43~80)
31	1860	3	46(32~65)
32	1789	13	39(20~54)
33	2012	9	30(17~44)
34	2256	17	26(10~46)

表 3 早産未熟児の入院医療費

24週	526,522 (±95486)点
25	429,018 (±186255)
26	320,200 (±51612)
27	226,411 (±33707)
28	276,948 (±131444)
29	200,825 (±87943)
30	128,612 (±55325)
31	81,016 (±32565)
32	75,759 (±26043)
33	60,141 (±28204)
34	49,885 (±15712)

表 4 妊娠を継続させた場合(37週まで)の医療費(点)

在胎週数	入院費 (超音波を含む)	抗生剤を使用 した場合
24週	182887点	217747点
25	167651	199606
26	152415	181465
27	137234	163379
28	122053	145293
29	106872	127207
30	91691	109121
31	76455	90980
32	61274	72894
33	46093	54808
34	30912	36722

表 5 Denver NICU の超未熟児の入院費
(Jan. 1984~Jun. 1985)

出生体重 (g)	症例数 (79例)	入院日数	入院費(%)
501~600	5	128.4±8.5	132123±8746
601~700	10	108.3±14.2	111441±14612
701~800	19	87.2±13.6	74120±11560
801~900	27	79.7±19.5	61847±15132
901~1000	23	61.6±18.4	47801±14278

Clin Perinatol 13 : 461,1986.

院期間の長期化・呼吸管理の期間・重症合併症・外科手術の必要性・疾患の慢性化などによる。

表 5 に Denver の NICU での超未熟児の入院費用を示した。このデータと単純に比較すると入院期間は米国の1.5-2倍長く費用はおおよそ6~7割であることがわかる。Stahlman の算定によると出生体重800gで体重1gにつき82.6ドル, 1,500gでは1gにつき3.20ドルであるという。表 4 は母体管理により早産を防止できた場合の管理料を示した。34週になっても未熟児出産より妊娠を断続させた方が経済効率のいいことが分かる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的:極小未熟児の出生率がまし,死亡率が減少すると,それに伴って入院が長期化し,多額の費用を要する。そこで早産未熟児の入院費用の実態と早産防止のための母体管理費とを対比して検討した。